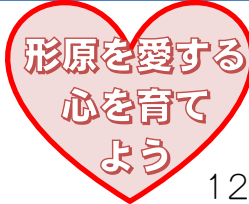


ふるさとを愛する人

～ふるさと形原を愛する形中生～



形原漁港魚市場の競り見学

12/22(金)早朝の3時15分から、希望する生徒と保護者を対象に、形原漁港「魚市場の競り」の見学をおこないました。漁港のある町に住んでいる生徒たちですが、魚市場の競りを見る機会はほとんどありません。活気のある競りの様子や水揚げされた沢山の魚を自分の目で見ることで、生徒たちが形原を好きになり、地域が元気になるきっかけになればと思い企画しました。朝早く、しかも寒い時間帯なので、人が集まるか心配しましたが、生徒・保護者・教職員、あわせて59名の申し込みがありました。

競り当日、まだ日が昇らない真っ暗で極寒の中、参加者は集まりました。元漁師の鈴木貴晶議員やヤマスイの山本さんから、競りのやり方や魚の種類や並べ方などの説明を受けました。その後、生徒たちは、競りの人たちが全く聞き取れない独特の言い回しで、トロ箱ごと次々に落札していく様子を興味津々に見学していました。大変貴重な経験になったと思いました。

この企画を実現するのに、形原漁協さん、順風丸さん、味のヤマスイさん等、多くの地元のみなさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。



競りの説明を聞く参加者

高級なのだぐろから身近なメヒカリまで、沢山の魚が水揚げされました

ヒラメの血抜きをしています

東愛知新聞 2023年(令和5年)12月23日(土曜日) 第3種郵便物認可



競りの様子を見学する生徒と保護者。いずれも形原漁港。

朝早くから東愛知新聞の林記者さんが、競り見学の様子取材に来てくれました。

12/23(土)の新聞に掲載されました。



水揚げされた深海魚に興味深そうに見つめる生徒

魚市場で競りの熱気体感

漁港を見学 蒲郡形原中生徒ら地元元学ぶ

深海魚にも興味津々

形原を愛する
心を育て
よう

形中オリジナルの**体育授業を開発** 形原のロープを使った「**ダブルダッチ**」



ダブルダッチの回し方と跳び方の基本を日本代表コーチのみなさんから聞いています

日本代表コーチのみなさんに2本のロープを回してもらい、生徒が跳ぶ練習をしています

みなさんはダブルダッチという競技を知っていますか？向かい合った2人の回し手が2本のロープを交互に回し、その中で1～2人のジャンパーと呼ばれる跳び手が技を交えながら跳ぶ競技です。オランダ人(ダッチ)の遊びであったことが語源と言われています。

種目は、規定・スピード・フリースタイル・フュージョンの4種類があり、日本では特にフュージョンが盛んにプレーされています。それは、制限時間内に音楽に合わせてチーム独自の演技を行う種目で、2本の縄を跳んでいることを忘れさせる高速ステップや大胆なアクロバットが大きな魅力だそうです。ダブルダッチは、世界大会も行われ、競技人口は5万人を数えます。若者の間で徐々に人気が出てきている競技です。



そんな**ダブルダッチの多く選手が、なんと形原のロープを使っている**のです。形原のロープは跳びやすく、**世界大会でも使用されている**そうです。すごいですね。そこに目をつけたのが体育のM教諭です。形原のロープを使ったダブルダッチのフュージョン競技を、形中独自の体育の授業として開発できないかと考えたのです。そして、昨年秋、3年生の体育の授業にダブルダッチの日本代表コーチをお招きし、生徒とともに競技のやり方や魅力について実演を交えながら教えていただきました。中学体育に「縄跳び」はないので、「ダンス」のカテゴリーとして授業を考えました。市内の体育の先生にも公開し、さまざまなアドバイスをいただきました。そして、**形原愛溢れる新しい体育の授業として完成させました**。素晴らしいですね。なお、今回使用したロープは、金平町の吉光製綱さんから寄贈していただきました。ありがとうございました。